

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人素心会 地域支援センターそしん（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 2月 26日		2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	未就学児童の支援、大事な導入の部分を担うにあたり、職員配置を厚くし、安全に支援が行えるよう配慮した体制を構築している。	配置基準以上の職員を有しているが、利用される児童の特性や発達段階に応じて必要とされる職員数を日々検討し日ごとに最適な人数を配置している。	サービスレベルの維持向上のために今後も適宜人材の確保に努める。
2	児童の支援、保育経験が豊かな職員が多く、それぞれの経験と個性が実際の支援に十二分に生かされている。専門知識を有する作業療法士や臨床心理士も加わり、多角的な視点から支援を実施できている。	教育現場での経験が長い職員が多いが、とにかく楽しく通所し楽しく活動できるように、なるべく「教育」的側面が目立ちすぎないように気をつけて支援にあたっている。	経験に基づいた支援と合わせて時代に即した支援が行えるよう研修や自己研鑽の機会をより多く提供できればと考えている。
3	事業所建設の際にのびのびと活動できるように広い室内空間を設計したことで、季節や天候に左右されず日々様々な活動が行えている。	制作等限られた空間で行う活動で1日を終えることなく、必ず運動する機会を設けて身体面の成長に寄与するプログラムを組んでいる。	事業所の敷地も広いので建物内で1日を過ごすのではなく、天気のいい日は外に出る機会をこれまで以上に増やすことができたらと考えている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日頃の活動や支援の様子を見ていただく機会があまり作れていない。	構造上室内に入らなければ様子を見ることはできないが、保護者が立ち入ることで影響を受けてしまう児童が多いこと。	懸念されることが実際に起こりうることも想定の範囲内として、ありのままを見ていただき、実際にご覧いただいた様子と日頃支援者が見ている様子に相違点があれば説明を尽くすよりほかないと思われる。
2	家族支援プログラムや研修会などの要望に応えきれていない。	日々の本人支援で手一杯で企画・運営・準備等の時間を取るのがなかなか難しい。	事業所内に相談支援部門があるので協力を仰ぎ案内できればと考えている。
3	保護者同士の交流やきょうだい同士の交流の機会が設けられていないと感じている保護者が相当数いた。	保護者同士、きょうだい同士の交流を企図してイベントを実施しているつもりだが、伝えきれてない部分はまだあるものと思われる。	今後もイベントを実施しつつ、保護者同士きょうだい同士の交流が図れるように内容を精査し、事業所側の意図が伝わるよう発信の面で工夫を重ねていきたいと考えている。